

和地ひとみレポート No.377

市内の施設でも感染者が・・・ 東大和病院でも院内感染が発生

■市の職員等も

…現在、東京都は緊急事態宣言が発出中です。この緊急事態宣言の発出については、様々な意見があることは承知していますが、緊急事態宣言発出の最大の理由は、現在の新型コロナウイルス感染症の感染拡大です。この感染拡大については、気温の低下や空気が乾燥する冬には起こりうることで、第一波と言われる4月ごろから注意喚起されていたことを考えると、外的な環境により起こるべくして起こったという感も否めません。

…前号のレポートでもお伝えしましたが、東大和市では、昨年末に新型コロナウイルスの感染者累計数が100人となりましたが、この感染者数は近隣自治体と比較しても少ない方でした。また、市の職員や、一般的に感染リスクが高いといわれている市内の施設の職員や関係者の感染については報告されておらず、いわゆるクラスターと呼ばれる施設に関連した人の濃厚接触による急激な感染拡大は東大和市内では発生していませんでした。

…しかし、前述のとおり、気温や空気の乾燥、また、全体的な感染者の増加による市中感染のリスクの向上により、東大和市の職員等（市の正職員、会計年度任用職員、委託業者職員など）からも感染者が出てきています。

【市職員等のコロナ感染の状況】

- ・1月3日陽性判明：勤務場所が市役所の30代女性
- ・1月14日陽性判明：勤務場所が中学校勤務の50代女性
- ・1月18日陽性判明：勤務場所が市役所の50代男性

…市では、このように職員等が新型コロナウイルスに感染し場合は、市公式ホームページへの掲載ならびに報道機関への情報提供を行っています。また、感染拡大防止に対する対応は保健所の指導により行っていますが、東大和市においては、現在のところ職場の消毒を実施して業務は継続できている状況です。

■高齢者施設でも

…また、今月に入ってから、以下のとおり市内の高齢者施設からも感染者が出ています。

【サービスセンターやまと苑での感染者発生等の概要】

1月14日(木)、サービスセンターやまと苑の地域密着型認知症対応型通所介護の利用者1名が、PCR検査の結果家庭内感染により陽性であることが判明。1月15日(金)、管轄の多摩立川保健所との調整により、当該利用者の最終利用日が11日(月)であることを踏まえ、現場環境や感染防止対策の確認と濃厚接触者の特定等が行われた。



その結果、11日に地域密着型認知症対応型通所介護を利用した8名を濃厚接触者としてPCR検査を実施。そのうち1名が陽性であることが判明。また、高齢者施設であることに鑑み、保健所の指示により、同日、通所介護を利用した22名及び職員14名についても念のためにPCR検査を実施したが、全員、陰性。

陽性者1名については、保健所の聞き取り調査が行われ、既に自宅待機しており、健康状態にも変化がないとのこと。これらの状況を踏まえ、サービスセンターやまと苑については、20日から通常業務に戻って構わないと多摩立川保健所は判断したが、当施設においては22日(金)よりデイサービスの営業を再開することとした。

また当施設では、16日にサービスセンターやまと苑の活動スペース全て及び送迎車両の全てについて、専門業者により消毒するとともに、更なる感染防止策の徹底のため、21日に職員一同による感染対策の会議と研修を実施したとのこと。

【特別養護老人ホーム風の樹での感染者発生等の概要】

1月15日(金)、特別養護老人ホーム風の樹の特養介護職員が、新型コロナウイルスに感染していることがPCR検査により判明。当該職員は1月11日(月)に発熱等の症状があり、1月10日(日)以降出勤していなかった。

1月16日(土)、所轄保健所へ報告。同保健所の判断により施設内に濃厚接触者はいないとのことだったが、念のため当該職員の属するユニットのご利用者19名、職員13名、合計32名にPCR検査を実施。

当施設においては、特別養護老人ホームは営業を継続。在宅サービス(デイサービス、ショートステイ)の運営に関しても、① 保健所の判断では特養介護職員、ご利用者とも濃厚接触にはあたらないこと。② 昨年より在宅サービス職員と特養職員とは動線や食事休憩等は極力共有しないようにしていること。③ 急な休業により、ご家族に混乱が生じること等を鑑み、感染予防対策を徹底した上で営業を継続することとした。また、在宅サービスを現在利用されている方、近日中にご利用予定の方のご家族に対しては経過を伝え、利用についての判断をしてもらったとのこと。最終的には1月19日にPCR検査を受けた32名全員の陰性が判明。

…上記のとおり、市内の高齢者施設でも感染者が出ていますが、各施設の適切な対応によりクラスター化は防げました。感染者が出ないことが一番良いことですが、現在は誰でも感染する可能性があるほど市中に新型コロナウイルスは蔓延しています。よって、感染者が出た後の対応が重要で、その対応によって事態の状況が左右されることとなります。そのためには、施設の感染防止策だけではなく、利用者やそのご家族の協力が不可欠だと感じました。
(裏面に続く)

■昭和病院でも

…東大和市内には市立病院などの公立病院はありませんが、小平市にある公立昭和病院は、昭和3年7月に周辺の町村合同で設立した病院で、東大和市を含めた構成市の住民の健康を保持するため、医療法に定める公的医療機関となっています。この昭和病院の設置及び管理に関する事務や関連する保健衛生事務は関係自治体共同で処理しているため、東大和市にとって、唯一の公立病院と言えます。

…この昭和病院においても、秋から病院関係者の新型コロナウイルスに感染者が出ていますが、クラスターにはまだ発展していません。

【昭和病院職員等のコロナ感染状況】

- ・11月5日陽性判明:病棟勤務看護師
 - ➡当該職員の接触者となる入院患者12名、同一勤務にあたった病棟職員13名について、事態が判明した直後に1回目、念のため1週間後に2回目のPCR検査を実施し、全員の陰性を確認。
- ・12月29日陽性判明:新型コロナ陽性患者を収容する一般病棟に勤務する看護師
 - ➡当該職員勤務には濃厚接触者に該当する者はいなかったが、勤務する病棟が新型コロナ陽性患者を収容する病棟であったことから、保健所と相談のうえ、念のために当該病棟勤務職員等45名(看護師40名、看護助手4名、医師1名)を対象者を拡大しスクリーニング検査を12月29日と30日に実施。検査結果は全員陰性。

…昭和病院においては、標準的な院内感染対策を実施しているため、感染症専門医等の意見を踏まえ、外来・入院ともに通常診療を継続することなので、東大和市民としては一安心ですが、一部報道によると「重症患者をこれ以上診るなら、通常医療だけでなく救急医療を止めるのに等しく、医療崩壊につながる」と昭和病院の上西院長が危機感を示したとのこと。また、新型コロナウイルス感染症患者の急増を受け、都内、特に23区内では救急患者の受け入れ先がなかなか決まらない中、昭和病院では23区内から患者の受け入れを求められることが少なくない状況になっているとのこと。

■東大和病院では院内感染

…東大和病院は市内唯一の救急外来のある総合病院です。東大和病院は公立病院ではありませんが、今回の新型コロナウイルス感染症対策においては、市や市の医師会とともに、様々な対策に協力し対応してくれています。…そのような、地域の医療のかなめともいえる市内唯一の総合病院である東大和病院でも1月に入り、新型コロナウイルス感染症の陽性者が継続して発生しており、1月22日(金)現在まで入院患者22名、職員13名の陽性が確認されています。

【東大和病院内における新型コロナウイルス感染の経緯】

- 1月 5日:入院患者1名が新型コロナウイルスに感染していることが判明。
 - 1月 6日:新たに入院患者1名、職員1名の感染を確認。
 - 1月 7日:感染者と接触のあった入院患者1名の感染を確認。
 - 1月 8日:新たに入院患者1名の感染を確認。また、前日までの感染者と接触のあった入院患者3名、職員3名に感染を確認。
 - 1月 9日:感染者と接触にあった職員1名に感染を確認。
 - 1月12日:陽性患者と同室であった入院患者3名の感染を確認。
 - 1月13日:陽性患者と同室であった入院患者2名の感染を確認。
 - 1月14日:入院患者1名の感染を確認。
 - 1月15日:入院患者2名、職員1名の感染を確認。
 - 1月16日:職員3名の感染を確認。
 - ※これ以後は、詳細不明(病院のHPより人数等を確認)
 - 1月18日:患者2名が感染。
 - 1月19日:職員3名、患者1名が感染。
 - 1月20日:職員1名、患者3名が感染。
 - 1月21日:患者1名が感染。
 - 1月22日:職員1名が感染。
- …このような院内感染の状況を受け、東大和病院では以下の対応を取ることとしました。

【東大和病院/病院付属のセントラルクリニックの対応】

【入院】全面的に制限

【検査・手術等】原則延期

【一般外来】診療は継続しているが、乳腺外科・形成外科・ペインクリニック科を除き、紹介受診を停止。紹介状なく直接来院された患者も入院はできない。

【救急外来】全面的に制限中。当院かかりつけの患者の急を要する受診のみ対応しているが、入院を要する場合は他医療機関へ調整。小児初期救急平日準夜帯診療は停止。

※関係機関からの要請、地域連携医療機関からの紹介に応じて、新型コロナウイルス感染症の疑いがある方の診療を実施。

※来院される方全員を対象に「体温測定」を実施。

※地域の流行状況を勘案し、2020年8月4日よりお見舞い・面会を中止。

…“医療崩壊”の定義は「救急医療や手術をはじめとする『本来あるべき医療ができない』こと」と言われています。東大和市民にとって総合病院は一つではありませんが、このような状況は東大和市民にも医療崩壊が迫ってきていると言わざるをえず、一人一人の感染症予防対策ならびに健康管理の重要性が増していると言えます。

市政、議会について「自然体」「ざっくばらん」にレポート。コロナ禍において、駅頭での配布は一時、控えております。

【プロフィール】「私たちの身近にある市政、市議会。伝えることがスタートだと思います。」

1970年 東京都北区生まれ。父の転勤で1歳から群馬県で育つ。幼稚園からカギっ子。リーダーシップを発揮し、小学校で児童会長、中学校でも生徒会長を務める。大好きな音楽を究めようと武蔵野音楽大学に進学、卒業。卒業後は群馬の山あいの小学校で臨時教諭として担任を2年勤め、新しい試みで授業を活性化させ「元気印の先生」として保護者・生徒から親しまれた。/「学校」の外の一般社会で挑戦しようとベンチャー企業の(株)シートゥーネットワーク(※スーパーマーケットを経営。店頭公開から一部上場、外資系企業に転換)に社長秘書として入社。のち店舗現場に異動、同社で初の女性店長となる。月刊誌『日経WOMAN』のベンチャー企業で活躍する女性特集で取り上げられる。その後、人材開発部長を拝命。/『人を活かす』経営を学ぶため一念発起しカナダに留学。外から見た日本の将来に、漠然とした不安を感じる。帰国後は、不動産投資会社にて企画業務、税理士対応、広報、社員研修、組織活性化などに従事。2011年4月、初当選。現在3期目。顔の見える議員として、日々奮闘中。



東大和市 市議会議員
和地 ひとみ

■ 連絡先

和地 ひとみ事務所

HP : <http://www.wachi1103.jp>

✉ wachi_hitomi@cocoa.ocn.ne.jp

【電話・FAX】 042-516-8546

〒207-0005 東大和市高木3-274-2-102